資幹六子型系図・調査済み資料リスト

更新日：2026年9月2日

目的：今後の調査で、確認済み資料を最初から再調査する重複を防ぐこと。本書だけを読めば、探索対象、判定方法、型分類、各資料の確認状況、残る調査課題が分かるようにする。

0. この資料の読み方

0-1. 調査対象

探しているのは、資幹（馬場小次郎／馬場小二郎）の子を次の六名とし、重幹に「海老根之祖」を含む注記を付す系図である。本書では、この構造を**A型（資幹六子型）**と呼ぶ。

資幹（馬場小次郎／馬場小二郎）
├ 聡幹
├ 光幹
├ 朝幹
├ 国幹
├ 実幹
└ 重幹
　└ 「青柳・枝川・川鳥／海老根之祖」と読める注記

六名の一部だけが別の父の下に現れる場合、重幹が別世代に現れる場合、「海老根」という語だけが別の場所にある場合はA型に含めない。人名の一致だけでなく、**親子線、世代、注記の接続先**を判定の中心にする。

0-2. 確認状況の区分

- **中身確認済み**：原画像・提供PDF・公開刊本の該当系図を人間が目視したもの。OCR検索だけのものは含めない。
- **存在・所蔵確認済み／中身未確認**：所蔵館・請求記号・書誌までは確認したが、原画像・本文を開けなかったもの。
- **名称のみ／独立所蔵未確認**：論文等に資料名は出るが、現在の所蔵館と請求記号を独立した書誌で確定できていないもの。
- **確認範囲**：「全画像」は、その時点で公開・提供されていた対象冊または対象細目の画像をすべて目視したという意味である。一画像が見開き一丁を写す場合もあり、画像数と紙の頁数は一致しない。
- 原本と転載・影写・刊本は別行にするが、同じ原本から派生したことが分かるものは、A型を伝える**独立した複数の証拠**には数えない。

- 「A型なし」は、その資料で確認した範囲についての結論であり、系譜の歴史的正誤を多数決で決めるものではない。

0-3. A〜J型の定義

A〜Jの記号は、本調査で資料間の違いを短く示すために付けた**作業上の分類名**である。佐々木論文、所蔵館、または系譜学界の公式分類ではない。A型以外は「A型とどこが違うか」を整理するための代表的な構造であり、細部の異なる資料を近似型に含めることがある。

型	本書での名称	判別点・代表構造
A型	資幹六子型（探索対象）	資幹の直子を聡幹・光幹・朝幹・国幹・実幹・重幹の六名とし、重幹に「海老根之祖」を含む注記を付す。
B型	中山本系標準型	資幹の子を朝幹・泰幹・親幹・長幹・時幹・直幹などとする系統。伝本により人数・配列・異名に差があるが、A型の六子構造にはならない。
C型	資幹重複型	同一の系図内に資幹が二度現れ、異なる枝または説明の中に配置される。単純な「資幹の子六名」という構造ではない。
D型	資幹・重幹別枝型	資幹を家幹の二男とする一方、重幹を幹晴の子など別枝・別世代に置く。
E型	真壁系助幹型	致幹―直幹―良幹―助幹と続き、助幹に「始馬場次郎」と注記する。探索対象の資幹とは人物・世代配置が異なる。
F型	嫡流単線型	資幹から幹朝（朝幹）・教幹・光幹・時幹・盛幹・高幹などを、兄弟六名ではなく主として継承する世代の列として示す。
G型	増補・再配列型	複数系統の人名・記事を後世の編纂で増補、統合、再配列した構成。A型の親子関係をそのまま持たない。
H型	家幹多子型（家幹十子型周辺）	資幹・光幹・国幹など、A型では資幹の子となる人名の一部を家幹の子の集団に置く。「助幹／資幹」の異名・注記を伴う伝本もある。
I型	芹沢支流型	大掾本流の資幹六子ではなく、芹沢氏へ下る支流系譜を中心に構成する『芹澤系図』系。
J型	中山本組込集成型	B型に近い中山本系の系譜を、家譜・伝記・異説などを含む後世の集成物へ組み込んだもの。単純な一枚系図ではなく、相互に近い写本が複数ある。

「B型周辺」「H型近似」は、主要な判別点はその型に近いが、人数、配列、異名または記事構成が完全には一致しないという意味である。「別構成」「略系図」「対象外」は、A〜Jのいずれかへ無理に分類するより、そのまま記述した方が正確な資料である。

0-4. 史料関係を表す用語

- **原本**：本調査で比較の基準にしている特定の現物。必ずしも中世成立の最古本という意味ではない。
- **伝本**：同じ著作・系図が書写・編集されて伝わった個々の本。
- **原伝本**：刊本・翻刻・転載の底になった、またはその系統の基礎とされた写本。現在所在が不明な場合もある。
- **写本／書写本**：手書きで写した本。写した際に省略、補入、校合が行われることがあるため、元本の複製画像と同じではない。
- **影写本／臨写本**：原本の文字・配置・線などを、通常の書写より忠実に写そうとした写本。ただし原本そのものではなく、脱落・誤写の可能性は残る。
- **校合**：複数の本を比較し、本文・人名・系線などを訂正または補うこと。
- **刊本**：印刷・活字化して刊行された本。原本の筆跡、朱筆、字間、親子線の細部などが失われることがある。

- **奥書**：巻末などに記された書写者、書写年、底本、校合などの記録。資料間の関係を判断する重要な手掛かりになる。
- **朱筆／後筆**：朱色の筆記／本文成立後に別の時点・筆者が加えたとみられる記入。本文と同時に書かれた情報かを見分けるために確認する。
- **再現**：論文等が原本の一部を図・翻刻として示したもの。原本の内容証拠にはなるが、原本と独立した別伝承ではない。
- **独立証人／独立票**：別の原本・伝承経路から同じ構造を伝える資料。一原本の転載・刊本・論文掲載図は別々の独立票に数えない。
- **第二証人**：現在唯一確認されているA型原本とは別系統から、同じA型を伝える二つ目の資料。
- **中山本**：佐々木紀一論文が「中山本」と呼ぶ、中山信名写『常陸大掾系図』。同じ中山信名に関係する『常陸稽古録』や『中山信名蔵書目録』とは別資料である。
- **内容証拠**：系図本文・親子線・注記を実際に確認できる資料。**所在証拠**は、目録・書誌によって資料の存在や所蔵だけを確認できる情報をいう。
- **代理資料**：原本を直接閲覧できないときに内容や系統を推定するため使う、転写・刊本・引用などの代替資料。
- **近縁／同著作系**：文章、配置、収録内容または書写元が共通し、互いに近い伝承関係にあると考えられること。物理的に別の本でも、独立証人とは限らない。
- **異同**：複数資料の間にある、人名、文字、配列、親子線、注記などの一致点と相違点。

0-5. データベース名・略称

- **国書DB**：国文学研究資料館「国書データベース」。古典籍の書誌・所蔵・公開画像を検索するサービス。
- **Hi-CAT／SHIPS**：東京大学史料編纂所の歴史情報・史料画像検索閲覧システム。本書では同所の書誌番号と画像閲覧URLを示す。
- **NAJDA**：国立公文書館デジタルアーカイブ由来の資料であることを示す表記。本書のPDF名にも使われる。
- **NDL**：国立国会図書館。NDLデジタルコレクション、NDLサーチを含む。
- **請求記号**：所蔵館が現物を特定し、閲覧・複写を申し込む際に用いる管理番号。
- **本調査**：ユーザー、ブラウザ版ChatGPT、およびCodexで行った共同調査の総称。「先行調査」は、この統合版作成前のブラウザ版ChatGPTとの確認作業を指す。

1. 中身まで確認できたもの

No.	資料	確認範囲・結論	型・独立性	URL
1	佐々木紀一「『常陸大掾系図』諸本考察」	全文確認。特に13〜14頁。静嘉堂『常陸諸家系図』所収本のA型を掲載。「川鳥」「海老根之祖」を確認	A型原本の再現であり、原本とは別の独立証人にしない	https://yone.repo.nii.ac.jp/record/624/files/T1-T17%20%20%E7%B4%80%E8%A6%81_%E4%BD%90%E3%80%85%E6%9C%A8%E5%85%88%E7%94%9F.pdf
2	『群書解題 第一』「系一八〇 常陸大掾系図」	ユーザー提供PDFの該当頁を確認。「海老根之祖」の系図そのものは掲載しない解題	系図原本ではない	ユーザー提供PDF
3	国立公文書館『諸家系図纂』所収 NAJDA-216-0001『常陸大掾系図』	提供PDF全14頁を目視。末尾奥書に「右常陸大掾系図、以中山信名本書写之、與数本校合畢」とあり、中山本から直接書写し、さらに複数本と校合したことを確認。B型周辺で、A型・海老根なし	**中山本の直接書写・数本校合本**。中山本原本そのものではなく、校合による変更の可能性がある。A型の独立票にはしない	https://commons.wikimedia.org/wiki/Commons:Library_back_up_project/file_list/NAJDA/09
4	中山信名自筆『常陸稽古録』第五冊「常陸大掾」	全470画像を取得・目視。資幹子は朝幹・泰幹・親幹・長幹・時幹・直幹以下。A型なし	B型。佐々木論文が「中山本」と呼ぶ中山信名写『常陸大掾系図』とは別資料	https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/3000828362?ln=ja
5	『続群書類従』第六輯上所収「常陸大掾伝記」および「常陸大掾系図」	両資料の該当部分を原画像確認。「常陸大掾系図」は中山本系のB型、「常陸大掾伝記」は別構成。いずれもA型なし	活字刊本。中山本系本文を確認できるが、原本の筆跡・朱筆・線・字間は確認できず、独立証人にしない	https://archive.org/details/zokugunshoruij61hanauoft
6	『石岡市史編纂資料 第7号』「常陸大掾七党系図」	NDL個人送信PDFをユーザーが全体確認。資幹の二重掲載的構造。A型なし	C型	https://dl.ndl.go.jp/pid/9640596
7	『常陸三家譜』第1冊	ユーザーがSHIPS画像を通覧。目的の資幹系図なし	対象部分なし	https://doi.org/10.57459/hi.01.200_2075_858_1
8	『常陸三家譜』第2・第3冊（大掾譜上・下）	本調査で現行公開画像を全件取得・目視。各20画像、計40画像。B型に近い中山本系系譜を家譜へ組み込んだ構成。A型なし	J型（中山本組込集成型）。4175-61と極近縁	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/200/2075/858/2/?m=limit&vo=2&db=01
9	『常陸大掾譜』4175-61	全60画像。『常陸三家譜』大掾譜と文章・配置がほぼ逐字一致。A型なし	J型。No.8と別の独立証人にしない	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/400/4175/61?m=limit
10	『大掾系図』4175-80	全38画像。資幹は家幹二男・初号馬場小二郎。重幹は幹晴の子で別枝。A型なし	D型	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/400/4175/80/?m=limit
11	国立公文書館『諸家系図纂』件名「馬場」	原画像確認。木曽義仲系の馬場氏で、常陸大掾資幹系ではない	対象外	https://www.digital.archives.go.jp/
12	同『常陸大掾流』	先行調査で部分確認後、本調査で全14画像を確認。「助幹／資幹」注記を含むがA型なし	H型（家幹多子型周辺）	https://www.digital.archives.go.jp/item/2544197
13	同『常陸大掾伝記二編』	本調査で公開単位の全19画像を確認。A型なし。国立公文書館では複数の細目をまとめた書誌単位であり、No.3の『常陸大掾系図』と内容が重なる	別構成を含む集成。No.3と別の独立証人にはしない。村上甲本等との対応候補だが同定は未完	https://www.digital.archives.go.jp/item/2544305
14	『平姓 真壁家系』2075-953	原画像確認。致幹―直幹―良幹―助幹「始馬場次郎ト云」。対象の資幹とは別世代	E型	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/200/2075/953/?m=limit

No.	資料	確認範囲・結論	型・独立性	URL
15	桜川市『平姓真壁氏系図』	巻子画像全体を確認。No.14とは別資料。真壁本流中心でA型なし	真壁系別本。URL欄は市公式関連入口で、当時の巻子直リンクはログから未回収	https://www.city.sakuragawa.lg.jp/temporary/page006693.html
16	宮内庁『〔常陸国鹿島郡〕烟田系図（平氏）』	全系図部分をユーザーが確認。対象の馬場資幹枝なし	鹿島・烟田系、対象外	https://shoryobu.kunaicho.go.jp/Toshoryo/Detail/1000504910000
17	宮本元球編『常陸誌料』2041.31-6 全七冊	本調査で全1,190画像を取得・目視。第1冊218画像は「平氏譜」上・下。全冊A型なし	平氏譜はF型（嫡流単線型）。歴博本と同著作系	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/200/2041.31/6/1/?m=limit
18	『常陸誌料』別写4143-33 第1・第2冊	全236画像を目視。A型なし	No.17近縁の可能性	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/400/4143/33/1/?m=limit
19	『安得虎子』第一冊「石川系」2071.31-4-1	全178画像。資幹・光幹・国幹等を家幹の子として置く構造。A型なし	H型近似。A型が家幹周辺の人名を資幹の子へ付け替えた可能性を検討するための重要な比較資料	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/200/2071.31/4/1/?m=limit
20	『大掾裔石川氏文書』2071.31-25	全114画像を目視。石川氏系譜を確認したがA型なし	石川支流資料	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/200/2071.31/25?m=limit
21	『本朝武家諸姓分脈系図』第130冊	全体目視。複数系統の人名・記事を増補・再配列した構成。A型なし	G型（増補・再配列型）	https://dl.ndl.go.jp/pid/2593402
22	同第140冊「大掾系図」	全体目視。資幹から幹朝・教幹・光幹・時幹等へ、兄弟列ではなく主として世代を追う構成。A型なし	F型（嫡流単線型）	https://dl.ndl.go.jp/pid/2593413
23	『系図綜覧 第二』「常陸大掾流系図」	39〜45頁を原画像確認。資幹・光幹・国幹等を家幹の多数の子の側に配置する。A型なし	H型（家幹多子型）	https://dl.ndl.go.jp/pid/1879314
24	同「芹澤系図」	46〜48頁を原画像確認。芹沢氏へ下る支流系譜で、資幹六子構造なし	I型（芹沢支流型）。刊本の底になった原伝本の現在所在は別途未確認	https://dl.ndl.go.jp/pid/1879314
25	『佐竹系図（正宗寺本）』公開PDF	全16頁確認。佐竹氏部分のみで、大掾資幹系を検査できる正宗寺本『諸家系図』全体ではない	対象外。AS288.2-38と混同しない	https://commons.wikimedia.org/wiki/Category:%E7%B6%9A%E7%BE%A4%E6%9B%B8%E9%A1%9E%E5%BE%93
26	『大日本史』氏族志の「常陸増井正宗寺所蔵平氏系図」引用	該当本文確認。正宗寺平氏系図の利用は確認できるが、A型六子構造は示さない	正宗寺本の二次引用	https://miko.org/~uraki/kuon/furu/text/dainihonsi/dns271.htm
27	『水戸市史』系の馬場資幹略系図	該当図確認。資幹―朝幹または標準的十子型。A型なし	B型／略系図	https://www.city.mito.lg.jp/uploaded/attachment/10823.pdf
28	『潮来町史』常陸大掾略系図	該当頁確認。資幹―朝幹を示す略系図。A型なし	略系図	https://lib.itako.ed.jp/statics/digitalArchive/001/HTML/index209.html

No.	資料	確認範囲・結論	型・独立性	URL
29	『中山信名蔵書目録』関連目録 2000-22・2000-30	公開画像を確認。『常陸大掾系図 二巻 別本』の記載を確認したが、系図本文や「海老根之祖」は載らない	所蔵来歴確認用の目録。A型内容証拠ではない	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/200/2000/22/?m=limit&vo=1&db=01
30	色川三中蔵書目録 4100-99	公開画像を確認。『常陸大掾系図』と「同別本」を確認。静嘉堂74函63架二本との関係が考えられる	蔵書目録。系図本文ではない	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/400/4100/99/?m=limit

この区分の重要な重複関係

- 『常陸三家譜』大掾譜と4175-61『常陸大掾譜』は、ほぼ同一伝本群であり二票に数えない。
- 佐々木2022年論文のA型図は、静嘉堂『常陸諸家系図』所収本の再現であり、独立第二証人ではない。
- 国立公文書館のNo.3『常陸大掾系図』は、中山本を直接書写して数本と校合した伝本である。No.13『常陸大掾伝記二編』は同館側の上位資料単位でNo.3と内容が重なるため、別々の独立証人に数えない。
- 『続群書類従』所収「常陸大掾系図」は中山本系の公刊本文であり、国立国会図書館にも所蔵される。しかし本文はすでに確認済みで、国会図書館所蔵本が中山本原本の画像を含むわけではない。
- 『常陸誌料』Hi-CAT本と歴博『平氏譜』は、少なくとも同著作系統として扱い、物理的写本数をそのまま伝承数にしない。
- 『系図綜覧』芹澤系図を確認済みでも、原伝本の所蔵・奥書を確認したことにはならない。

2. 存在・所蔵までは確認したが、原資料の中身を見られなかったもの

No.	資料	所在・現在の状態	次に必要な作業	URL
1	静嘉堂『常陸諸家系図』所収「平姓系図 大掾氏」	静嘉堂文庫108函21架、国書DB 29325779。A型の原資料。画像非公開	原本の該当丁前後、親子線、筆色、後筆、奥書を撮影	https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/29325779?ln=ja
2	中山信名写『常陸大掾系図』（中山本）	佐々木論文注（3）が「原本は静嘉堂文庫に所蔵」と明記。ただし本調査では対応する請求記号を確定できていない。中山本から直接書写し数本と校合した国立公文書館本と、中山本系の活字版『続群書類従』は確認済み	静嘉堂へ請求記号を照会し、原本を撮影。国立公文書館の直接書写・校合本との差分、筆跡、訂正、朱筆、親子線を確認する。本文確認だけを目的とする国立国会図書館訪問は不要	佐々木2022年論文（上記No.1）
3	静嘉堂『常陸大掾系図』二巻	静嘉堂74函63架、国書DB 29325878。中山旧蔵本候補。原本未実見	No.4および中山本・村上乙本との対応を原本で確定	https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/29325878?ln=ja
4	静嘉堂『常陸大掾系図』別本	静嘉堂74函63架、国書DB 29325879。原本未実見	No.3との異同、奥書、旧蔵者を確認	https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/29325879?ln=ja
5	京都大学蔵『常陸大掾系図』「安永八年石川久徴写」	国書DBの著作所在情報に京都大学本として掲載。KULINEの現行請求記号は未確定	京大へ旧カード目録を含む所在照会	https://kokusho.nijl.ac.jp/work/3845350?ln=ja
6	佐野本『常陸大掾系図』	東大史料編纂所2075-1090-11、画像非公開。旧案内の「佐野本系図10」に相当する細目が、現行公開単位では第11冊に入る	三細目の全画像・複写を取得	https://doi.org/10.57459/hi.01.200_2075_1090_11
7	彰考館典籍45	①大掾系図、②石川次郎家幹系、③常陸大掾を含む。史料編纂所書誌あり、画像非公開。彰考館は現在直接閲覧等を制限	東大史料編纂所の影写・写真帳の有無を照会	https://doi.org/10.57459/hi.01.610_6170.31_2_45
8	『行方玉造家譜』	東大史料編纂所2075-995。書誌あり、画像非公開	複写または別コピーを取得	https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/list/idata/200/2075/995/?m=limit
9	中山信名編『常陸遺文』第五冊「常陸大掾一族記（市毛幹忠蔵本）」	2071.31-15-5。内容細目あり、画像非公開	刊本または複写で全文確認	https://doi.org/10.57459/hi.01.200_2071.31_15_5
10	2024年翻刻『常陸遺文；続常陸遺文』	茨城県立歴史館史料叢書27、NDL請求GC43-R1。紙資料	所蔵館閲覧または有料複写	https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033441785
11	国立歴史民俗博物館『平氏譜』	H-61-1-2-36。別物理本は未実見。ただし同著作のHi-CAT『常陸誌料』第1冊全218画像は確認済み	Hi-CAT本との差分だけを確認	https://khirin.rekihaku.ac.jp/pid/nmih_collection/H-61-1-2-36.html
12	秋田県公文書館『佐竹并諸家系図』正宗寺蔵本系	AS288.2-38／旧F8101 50 251。「常州増井正宗寺蔵書四冊之内」。公開目録で所蔵確認、本文未実見	全丁撮影。平氏・大掾・石川・馬場を確認	https://rekishikan-ibk.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/satake-mokuroku06.pdf#page=10
13	秋田県公文書館『佐竹并諸家系図』清音寺蔵本系	AS288.2-39／旧F8101 51 252。「常州古内清音寺蔵書」。本文未実見	全冊撮影。石川氏系図二種を比較	https://rekishikan-ibk.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/satake-mokuroku06.pdf#page=10
14	佐々木紀一「『清音寺蔵本佐竹并諸家系図』所収石川氏系図二種について」	『山形県立米沢女子短期大学紀要』35号、2000年。論文書誌は確認、本文未入手	論文全文を図書館複写	https://ronbun.nijl.ac.jp/kind?k=%E4%B8%AD%E4%B8%96%E6%96%87%E5%AD%A6&page=860

No.	資料	所在・現在の状態	次に必要な作業	URL
15	『常陸名族志／常陸名家譜』	大内正敬、天保6年。西尾市岩瀬文庫の書誌を確認。第1冊に大掾氏	大掾氏巻と引用底本を確認	https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000094-I207307
16	『中世常総名家譜 上巻』	石川豊、1991年。NDL館内限定。大掾氏・支族・庶流を収録	館内閲覧で出典注を回収	https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I000002131959

この区分は、今後「Webで存在確認をやり直す」必要はない。次は別コピー、影写本、複写または現物確認の段階である。ただし、書誌情報・公開条件・請求記号は変更され得るため、実際に閲覧申請する直前には所蔵館の最新案内を確認する。

3. 名称は確認したが、独立した現在所蔵・請求記号まで到達していないもの

共通する存在根拠は、主として佐々木2022年論文である。

No.	資料・通称	現在までに分かったこと	未解決点	共通URL
1	妙本寺本『平家系図』原伝本	佐々木論文は『千葉県の歴史 資料編 中世三（県内文書二）』掲載形を利用	原伝本の現在所蔵・請求記号と、掲載底本との関係を独立確認できていない	https://yone.repo.nii.ac.jp/record/624/
2	芹沢系図原伝本	『系図綜覧 第二』掲載形は確認済み	掲載底本となった原伝本の所蔵・奥書が未確認	同上
3	中条本系図	論文に比較対象として登場	所蔵館・請求記号・原画像未確認	同上
4	村上権兵衛本	静嘉堂文庫蔵と論文にある。浅羽氏蔵本・市川将監蔵本との異同を持つとされる	静嘉堂での確実な請求記号・国書DB書誌との対応未確定	同上
5	浅羽氏蔵本	村上権兵衛本の異同比較元として論文に登場	現在所在未確認	同上
6	市川将監蔵本	同上	現在所在未確認	同上
7	吉田本原本	『吉田神社文書』所収断簡の翻刻が『茨城県史料 中世編二』にある	原本の現在所蔵・請求記号と画像未確認	同上
8	吉田流石川氏「恒富吉田郷相伝系図」原伝本	『大掾裔石川氏文書』・『諸家系図纂』系の代理資料は確認した	名称どおりの原伝本の独立所蔵・奥書は未確認	同上
9	色川三郎兵衛書写『島崎譜』所収「岡田」	佐々木論文は東大史料編纂所謄写本を利用	Hi-CAT上の独立請求記号を特定できていない	同上
10	立原氏流原伝本	公開4175-80は確認済み	論文で比較される全立原系資料と4175-80との対応未確定	同上
11	東持寺本『山川系図』	論文・関連研究に名称が出る	現在所蔵・請求記号・画像未確認	同上
12	正宗寺本『諸家系図』東京大学史料編纂所臨写本	研究文献中に史料編纂所臨写本への言及あり	請求記号を発見できず、AS288.2-38との同一性も未確定	同上

村上甲・乙・丙本の現在の扱い

- **村上甲本**：『諸家系図纂』の『常陸大掾伝記』系とされる。公開代理資料は確認したが、個々の細目と「甲本」の対応を完全には確定していない。
- **村上乙本**：佐々木論文では静嘉堂文庫所蔵の常陸大掾系図群と関係づけられるため、存在確認済み群に移した。ただし静嘉堂74函63架の国書DB 29325878・29325879のどちらに対応するかは未確定。

- **村上丙本**：彰考館典籍45所収本とされるため、存在確認済み群に移した。本文画像は未見。

4. 統合によって修正した旧リストの記載

1. 『常陸大掾流』は「部分確認・型保留」ではなく、**全14画像確認済み、H型、A型なし**へ更新。
2. 『常陸三家譜』大掾譜は、現行公開単位では第2・第3冊各20画像、合計40画像。旧記載の「画像220付近」は撤回。
3. 『佐野本系図10』という呼称は論文・旧細目上の冊次。現行Hi-CATでは対象細目は**2075-1090-11**に表示される。
4. 『常陸大掾七党系図』は未確認群から除外し、全画像確認済みC型とした。
5. 歴博『平氏譜』の別物理本は未実見だが、同著作に相当するHi-CAT『常陸誌料』第1冊を含む全七冊1,190画像は確認済み。
6. 新たに、秋田県公文書館AS288.2-38正宗寺蔵本系、AS288.2-39清音寺蔵本系、佐々木2000年論文を「所在確認済み・本文未見」に追加。
7. 国立公文書館 NAJDA-216-0001『常陸大掾系図』は、単なる「B型周辺」ではなく、奥書により**中山本から直接書写し、数本と校合した伝本**と確定した。
8. 『続群書類従』第六輯上について、旧記載の「『常陸大掾系図』二種」を、「常陸大掾伝記」および「常陸大掾系図」の二資料へ訂正した。
9. A〜J型が本調査独自の作業分類であることを明記し、各型の判別点、史料関係用語、データベース略称を第0章に追加した。

5. 現在の最短結論

- **A型を直接確認できる内容証拠**：佐々木2022年論文の掲載図。
- **A型原本**：静嘉堂108函21架『常陸諸家系図』所収本。未閲覧。
- **中山本原本**：佐々木論文は静嘉堂所蔵とするが、請求記号未確定・未閲覧。ただし、中山本から直接書写して数本と校合した国立公文書館本と、中山本系の活字版『続群書類従』は確認済みで、いずれもA型ではない。
- **独立したA型第二証人**：未発見。
- **国立国会図書館訪問の要否**：中山本系活字本文だけを確認する目的では不要。『続群書類従』本文は確認済みであり、国会図書館所蔵本は中山本原本ではない。
- **次の最優先取得対象**：静嘉堂A型原本、秋田AS288.2-38・39、佐々木2000年論文。中山本原本は、国立公文書館の直接書写・校合本との差分確認という目的で取得価値がある。